

令和 5 年 6 月 18 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2022

課題番号：17K02355

研究課題名（和文）実践的ワークショップによるダンサー同士の身体コミュニケーションの研究

研究課題名（英文）"Exploring Corporeal Communications Among Dancers Through Practical Workshop Sessions"

研究代表者

渡沼 玲史（WATANUMA, Reishi）

早稲田大学・坪内博士記念演劇博物館・その他（招聘研究員）

研究者番号：50419751

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：集団即興時にダンサー同士が行っているコミュニケーションについての研究を実施した。集団即興を实践するダンサーへのインタビュー、文献調査を通じて即興ダンスにおける他のダンサーとのコミュニケーションには多様なメディアからくる情報が利用されると同時に、その多様なメディアも一つのモダリティとして扱われるのではなくマルチモーダルな情報を持つものの中でも動きの質の情報について、言語というメディアと動作というメディアがどのように関係しているのかについて、言葉から動作をどう判別するか、動作から言葉をどう判別するかの方でアンケート調査を行いその特徴について調査を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、即興ダンスのメカニズムとその社会的意義を明らかにすることで、ダンス研究や身体論、舞台芸術の理論領域に新たな視点をもたらす。また、即興ダンスにおけるコミュニケーションの過程を理解することは、日常生活における身体表現や非言語的コミュニケーション理解にも寄与する。

研究成果の概要（英文）：I conducted research on the communication that occurs among dancers during group improvisation. Through interviews with dancers who practice group improvisation and literature reviews, I found that communication in improvisational dance utilizes information from various media. These diverse media are not treated as individual modalities but as possessing multimodal information, particularly concerning the quality of movement. I explored the relationship between the media of language and action, and how we discern action from words and words from action, in two ways. I conducted a survey to investigate these characteristics, examining how to determine actions from words and how to discern words from actions

研究分野：舞踊学

キーワード：舞踊学 ダンス 即興

1. 研究開始当初の背景

20世紀後半から21世紀初頭にかけて最も先鋭的な方法でダンサー達の即興を用いてダンス作品を創作してきた振付家がウィリアム・フォーサイスである。フォーサイスはバレエの振付家として出発し、ハード・バランシンと呼ばれる作風で一世を風靡したが、それでは飽き足らずフランクフルト・バレエ団のダンサーたちと作品ごとにテーマを設定して身体の探求を進めていき、ダンス・クラシックというバレエの基本技術の枠から外れた動きを生み出し作品に取り入れていった。またその過程でフォーサイスの振り付けの手法も変化していき、ダンサー自身が振り付けに参加した作品やダンサーの即興を用いた作品を作るようになっていった。フォーサイスは特に、高度な即興の手法をダンサーたちに習得させることにより、ダンサーたちのダンスによる即興的なコミュニケーションによって作品を成立させるようになった。その手法の一部は『インプロヴィゼーション・テクノロジーズ』(慶應義塾大学出版,2000)として発表されている。これらの手法は、高く評価されフォーサイスはダンス界、アート界を超え広く関心を集めている。その後フランクフルト・バレエ団は解散し、それを引き継いだフォーサイス・カンパニーは2015年に解散してしまっただが、活動を続けている元フォーサイス・カンパニーのダンサーも多い。とはいえ、なるべく早く調査を行うことが好ましかった。

フォーサイスは20世紀から21世紀を代表する振付家であり、研究や批評も多く出ている。もちろんフォーサイスの用いた即興やダンサー同士のコミュニケーションも重要なトピックの一つではある。例えば、Audio-Visual Stress: Cognitive Approaches to the Perceptual Performativity of William Forsythe and Ensemble (Freya Vass-Rhee, PhD diss, University of California Riverside, 2011)はダンサー同士のコミュニケーションにおける音と動作の交換がどのように行われているかについての分析であり、Media-Bodies:Choreography as Intermedial Thinking Through in the Work of William Forsythe (Sabine Huschka, Dance Research Journal 42/1 summer 2010, 61-72)では「書く」(writing)というフォーサイスのテクニックを介したダンサー同士のコミュニケーションを分析している。しかしながら、他の多くの研究と共通するのは、コミュニケーションの形式を示してその特徴を示すだけだということである。そしてその特徴は多くの場合、批評理論のコンテキストに結び付けてフォーサイスの作品や手法の特権性を示すための材料として使われる。つまり、ダンサーからの証言を用いる時も、ダンサー同士のコミュニケーションのあり方や、ダンサーの精神と身体で起こっていることを分析するものではなく、論旨に沿う発言の断片的な引用にとどまっている。しかし、フォーサイスの方法の真価を知るためには、その中で実際に活動してきたダンサーたちの証言が決定的に重要であると考えられる。

2. 研究の目的

振付家ウィリアム・フォーサイスのカンパニーでは、高度な即興の手法をダンサーたちが習得することにより、ダンサーたちのダンスによる即興的なコミュニケーションによって作品が成立してきた。ダンサーたちが具体的にはどのようなコミュニケーションをとって来たのか、またそれによって身体と精神の関係がどのように変化していったのかはまだ明らかにされていない。ダンサーたちへの聞き取り調査と実践的ワークショップの分析によってダンサー同士のコミュニケーションとダンサーの身体と精神の関係を明らかにするのが本研究の目的であった。

3. 研究の方法

フランクフルト・バレエ団、フォーサイス・カンパニーの元ダンサーたちに集団即興時のダンサーの身体と精神についてインタビューを行うとともに、集団即興時の映像資料を分析してもらった。そしてダンサーたちによる実践的ワークショップを開催し、その模様を記録し分析するとともに、ダンサーたち自身にも分析してもらうことによって、集団即興時のコミュニケーションを解明する予定であった。

4. 研究成果

コロナ禍のため、予定されたいワークショップが開催できなくなり、その後も開催を模索し続けたが、開催が可能となる状況が整わなかったため、予定を変更して研究を行った。集団即興時にダンサー同士が行っているコミュニケーションについての研究を実施した。集団即興を実践するダンサーへのインタビュー、文献調査を通じて即興ダンスにおける他のダンサーとのコミュニケーションには多様なメディアからくる情報が利用されると同時に、その多様なメディアも一つのモダリティとして扱われるのではなくマルチモーダルな情報を持つものの中でも動き

の質の情報について、言語というメディアと動作というメディアがどのように関係しているのかについて、言葉から動作をどう判別するか、動作から言葉をどう判別するかの二方向でアンケート調査を行いその特徴について調査を行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

「美からの解放 飽くなき探求者、ウィリアム・フォーサイス、2021年10月、公演『ダンスの系譜学』のパンフレット

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------